

第10期 MOT (技術マネジメント) 研究会

開催のご案内

テーマ: IoT・AIを活用した研究開発とイノベーション

[平成30年大阪開催]

- ◆ 会 期: 平成30年7月3日 (火) ~11月16日 (金) ※全5回
- ◆ 会 場: 大阪科学技術センタービル会議室
(大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◆ 講 師: (講義および各回のコーディネーター)
神戸大学大学院経営学研究科教授
原 田 勉 氏
- ◆ 特別講演: 大阪大学 理事・副学長
八 木 康 史 氏
- ◆ 実践事例: ZMP、日本マイクロソフト、富士ゼロックス
- ◆ 特別視察: 大阪ソーダ 総合研究開発センター (尼崎市)
- ◆ 対 象: 研究・開発部門、技術部門の管理者・リーダーの方々
企業内でMOTの推進・教育に携わるの方々 など
(定員 30 名)

開催にあたって

グローバル競争の激化や国内市場の縮小化など、企業を取り巻く事業環境は変化しております。そのため、各企業においては自社製品・技術の優位性がゆらいでおり、新たな価値やイノベーションの創出が求められております。

そして、このイノベーションをいかに生み出すかを考えるのがMOTの主要テーマであり、本研究会ではその推進のための技術マネジメントのしくみ、新たな組織能力の高め方、研究開発活動のプロセスなどについて考えます。指導講師のコーディネートのもと、他社事例の発表とディスカッションをもとに、実践から得られるヒントを学んでいくカリキュラムとなっております。

本年のテーマは「IoT・AIを活用した研究開発とイノベーション」です。自社で蓄積された技術も活用しながら、外部との柔軟な連携・提携によりイノベーションを推進し、既存の事業領域にとらわれない新しい価値を社会に提供できる組織であることが、時代を超えて勝ち残る企業の条件と言えるのではないのでしょうか。

この機会に、関係各位の積極的なご派遣（ご参加）をおすすめ申し上げます。

主 催



一般社団法人 日本経営協会

指導講師

神戸大学大学院経営学研究科 教授
Ph.D. (スタンフォード大学) 博士

原 田 勉 氏



〔略歴〕 1989年一橋大学商学部卒業
1991年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
1997年スタンフォード大学よりPh.D(経済学博士)取得
1997年神戸大学経営学部助教授
1998年科学技術政策研究所客員研究官(～ 99年)
2003年INSEAD 客員研究員(～ 04年)
2004年ハーバード大学フルブライト研究員(～ 05年)
2005年神戸大学大学院経営学研究科教授

〔専攻〕 経営戦略・組織・技術マネジメント、産業組織・経済成長論

〔著書〕 『イノベーションを巻き起こす「ダイナミック組織」戦略』日本実業出版社2016年
『イノベーション戦略の論理』中央公論新社 2014年
『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』東洋経済新報社2010年
『汎用・専用技術の経済分析』白桃書房 2007年
『ケース演習でわかる 技術マネジメント』日本経済新聞出版社 2007年
『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価編]』東洋経済新報社2007年
『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』東洋経済新報社2006年
『MBA 戦略立案トレーニング』東洋経済新報社2003年
『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』東洋経済新報社 2000年
『知識転換の経営学』東洋経済新報社 1999年 他

<指導講師からのメッセージ>

MOT(技術マネジメント・技術経営)について講演や研修を依頼される場合、よくあるリクエストは、他社での具体的な事例を数多く盛り込んで欲しいというものです。教科書のなかの話ではなく、現実にはどのような技術マネジメント、技術経営が実践されているのかは、多くの企業の方々にとって強い関心事であると同時に、その情報はきわめて限定されているのが実状です。というのも、このような MOT に関する事項はトップシークレットとしてあつかわれることが多いからです。

この MOT 研究会では、このような要望をもつ企業の方々に対して、日本を代表する優良企業で技術マネジメントを実践されている現場の方々に講師としてお迎えし、自社の事例について詳しくお話していただきます。そして、そこで問題提起された事項について自由に討議していきます。MOT に関心をもっているけれども、まずは先端的な企業ではどのようにそれが実践されているのか知りたい、自社で MOT を導入しているけれども、どのようにすれば成果が上がるのかヒントを得たい、といった要望をお持ちの方々に是非ともご参加いただき、共に研究していききたいと思います。

研究会のすすめ方・特長

- 1 多彩なゲストスピーカーの講話や視察を通し、技術マネジメントのあり方と実践について多面的に学びます。また、各回とも指導講師のコーディネートのもと、質疑応答や討議・意見交流を深めます。
- 2 懇親交流会(2回)を通し、参加者同士の交流と親睦をはかります。
- 3 全会合終了後は、すべてのドキュメントを1冊にまとめ、報告書として進呈いたします。



日時・会場	テーマと内容	当日のスケジュール(予定)
第 1 回 7月3日(火) 13:30～18:30 会場 大阪科学技術 センタービル	特別講演 「産業を変える:産学共創によるAIイノベーション」 講 師： 大阪大学 理事・副学長 八木 康史 氏 データ利活用の飛躍的進歩により、「第 4 次産業革命」に向けた国際競争が激化している中、データの利活用によるイノベーション創出の鍵は、世界唯一の高付加価値データの収集とそのデータの利活用を可能とする AI 人材 (AI 技術の研究者、AI 技術を使いこなすエンジニア・データサイエンティスト) の確保にあります。本講演では、イノベーションのための大学の役割について、大阪大学の事例をご紹介します。	13:30 開会 13:35 八木氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流
	<懇親交流会> 同ビル内で実施予定	17:00 ～ 18:30
第 2 回 8月8日(水) 13:30～17:00 会場 特別視察 (株)大阪ソーダ 総合研究開発センター (尼崎市)	「大阪ソーダの事業展開と新製品開発の取組み」 ゲスト： 株式会社大阪ソーダ R & D 本部イノベーションセンター長 井戸垣 秀聡 氏 大阪ソーダは、かせいソーダメーカーとして1915年に創立。クロル・アルカリ、電極事業などを基盤事業とし、特殊ゴムのエピクロロヒドリンゴムや熱硬化性樹脂ジアリルフタレート、液体クロマトグフラー用シリカゲルなど機能性の高い商品の開発に注力してきました。2017年10月に新たな研究開発拠点として、総合研究開発センターを開設。このたびは、各部門間の垣根を取り払うことで新製品開発の加速化を狙った取り組みについてご紹介いただきます。	13:30 開会 13:40 センター見学 (小休憩含む) 15:30 井戸垣氏ご講話 16:30 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で意見交流 17:00 終了
第 3 回 9月21日(金) 13:30～17:00 会場 大阪科学技術 センタービル	「自動運転技術を使って夢を実現する」(仮題) ゲスト： 株式会社 Z M P 代表取締役社長 谷口 恒 氏 近年世界中で自動車会社だけでなく、ロボット企業やIT企業がロボットカーの研究を活発化しています。また、歩道では低速で走行する宅配ロボットの研究も始まりました。ZMPでは、共通した自律移動技術を使って人や物の移動革命を起こし、これまでできなかった夢の実現を目指しています。このたびは、同社のこれまでの活動事例を通じて、自動運転の実用化についての考察をお話いただきます。	13:30 開会 13:35 谷口氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了
第 4 回 10月9日(火) 13:30～17:00 会場 大阪科学技術 センタービル	「マイクロソフトにおけるAI研究開発姿勢と今後の展望」 ゲスト： 日本マイクロソフト株式会社 執行役員 最高技術責任者 兼 マイクロソフトディベロップメント株式会社 代表取締役社長 榊原 彰 氏 マイクロソフトでは、近年「AIの民主化」を掲げ、画像・音声認識、機械学習、深層学習といったAI分野への研究開発投資を加速しています。このたびは、同社「Cortana」などのAI開発における技術研究への取り組みとともに、AIを活用したイノベーション創出のための事業・組織体制、他社協業への取り組みについてご紹介いただきます。また、AIやMR(複合現実)などインテリジェントテクノロジーの今後の展望や推進姿勢についてもお話いただきます。	13:30 開会 13:35 榊原氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了
第 5 回 11月16日(金) 13:30～18:30 会場 大阪科学技術 センタービル	「富士ゼロックスのSmart Work Innovation戦略」 ゲスト： 富士ゼロックス株式会社 研究技術開発本部 マーケティング技術研究所 所長 菊地 理夫 氏 富士ゼロックスは、米ゼロックス創業者が表明した「我々の事業の目的は、より良いコミュニケーションを通じて、人間社会のより良い理解をもたらすことである。」という哲学を脈々と受け継いでいます。このたびは、富士ゼロックスが近年のキーワード「IoT」、「IoH」、「ビッグデータ」、「AI」などをどのように捉え、新しい働き方を社会に提案しようとしているのか、「富士ゼロックスのSmart Work Innovation戦略」に基づいてご説明いただきます。	13:30 開会 13:35 菊地氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流
	<懇親交流会> 同ビル内で実施予定	17:00 ～ 18:30

※ 上記の時間帯については、当日の進行状況により、多少変更させていただきます。また、各回の討議の進行については、当日の状況にあわせて指導講師がコーディネートします。

※ 諸事情により、日程・講師・内容等に変更が生じる場合がございます。

◆企画委員 (50音順) 本研究会の発足にあたり、主旨へのご賛同や企画へのご協力をいただいた方々

岩見 豊史 氏	グローリー株式会社 開発本部 第一開発統括部 統括部長	河原 克己 氏	ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長
奥村 剛宏 氏	武田薬品工業株式会社 治験薬品質保証部 IMPクオリティ アドバンスセラピーズ グループマネージャー	森岡 裕子 氏	大日本住友製薬株式会社 技術研究統括部長
小畑 智宏 氏	日立造船株式会社 事業企画・技術開発本部 業務部長	根津 晃 氏	パナソニック株式会社 研修開発部 技術研修課 課長
金子 靖仙 氏	ミズノ株式会社 研究開発部 部長	濱田 哲郎 氏	株式会社ノーリツ 要素技術研究部 部長

◆実施要領・申込要領

- ◇会 期：平成30年7月3日(火)～11月16日(金)(全5回)
- ◇会 場：大阪科学技術センタービル会議室(大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◇主 催：一般社団法人 日本経営協会
- ◇受講登録：1社につき2名様までのお申込が可能です。※登録者以外の方の代理出席も可能です。
- ◇定 員：30名
- ◇参 加 料：(1社あたり) *消費税8%を含みます。

	1名登録の場合			2名登録の場合		
	参加料	消費税	合 計	参加料	消費税	合 計
本 会 会 員	92,000円	7,360円	99,360円	145,000円	11,600円	156,600円
一 般	115,000円	9,200円	124,200円	165,000円	13,200円	178,200円

- ◇申 込 方 法：下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、下記事務局までFAXまたは郵送でお申込みください。折り返し参加券を送付いたします。
- ◇申込締切日：平成30年6月26日(火)
- ◇お支払方法：お申込到着後、本会から請求書と振り込み用紙を送付いたしますので、開講日までに請求書に記載の指定口座にお振り込みください。
*振込み手数料は貴社にてご負担ください。
*領収書の発行は省略し、「銀行振込金受領書」をもって代えさせていただきます。
- ◇そ の 他：お振込みいただいた参加料は原則として返金いたしかねますので、ご都合が悪くなられた場合は代わりの方のご登録をお願いいたします。

◆お申込・お問合せ先

一般社団法人 日本経営協会 関西本部「MOT研究会」事務局 (担当：田中)

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル5階

TEL：06-6443-6962 FAX：06-6441-4319 E-Mail：ksosaka@noma.or.jp

031A-1807(4)

キ-リ-ト-リ-線

平成30年 月 日

NOMA「第10期 MOT研究会」参加申込書

☐ (一社)日本経営協会会員 ☐ 一般

- (1) 会社(団体)名：_____
- (2) 住 所：〒_____ TEL () - _____
- (3) 連絡担当者氏名：_____ 所属役職名 _____ FAX () - _____
(請求書送付)

◆登録者

氏 名 (フリガナ)	所属・役職名	勤務先住所	連絡先(TEL・E-mail)
フリガナ		〒	
フリガナ		〒	

参加申込書にご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。
①参加券や請求書の発送などの事務処理 ②セミナー・イベントなど本会事業のご案内
なお、②がご不要の場合は□にチェックしてください。—— □ 不要

本コースは、運営において参加者各位の氏名、勤務先名、所属、役職名を記載した参加者名簿を本講座の参加者全員に配布することが必要ですので、このことを同意のうえお申し込みください。